

東京海洋大学海洋生命科学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）	学部の教育研究上の目的	
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 	<p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食料の利用・加工、海洋政策や文化に関心と興味を持ち、これらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>	
<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食品としての生産理論と技術、人との共生関係に根ざした海洋政策や文化に関心と興味を持ち、グローバル化するこれらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人の養成を目指します。</p> <p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【豊かな人間性、幅広い教養等】 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力</p> <p>【国際性・語学能力等】 国際交流の基盤となる幅広い視野・語学能力と文化的素養</p> <p>【論理的思考、判断力、責任感】 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力</p> <p>【専門的知識の深化・応用・実践】 海洋に対する科学的・文化的認識を深化させ、生物資源の利用・保全の方策、食品生産技術、海洋産業・海洋文化の望ましい持続的発展の方策を提示し、実践する能力</p> <p>【実践的指導力】 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力</p> <p>3. 卒業認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士(海洋科学)の学位を授与します。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)</p> <p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、幅広く深い教養と語学力を身につけるための「総合科目」、多様化・高度化する専門分野の諸課題を理解するための「基礎科目」「コア課程科目」および深い学識を涵養し、専門的な能力を育成するための「アドバンスト課程科目」を有機的に連関させたカリキュラムを提供し、大学院教育との接続を行います。さらに「グローバル・キャリア関連科目」により国際社会、産業界等の社会への接続をスムーズにします。</p> <p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕</p> <p>【基礎科目・コア課程科目】 基礎科目、コア課程科目では、各学科の専門科目を学ぶための基盤となる自然科学、数理科学および人文・社会科学を学修します。グローバル関連科目では、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕</p> <p>【アドバンスト課程科目】 アドバンスト課程科目においては、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力を修得することを目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。海洋生物資源学、食品生産科学、海洋政策文化学に関する専門知識、すなわち、海洋生命科学、海洋生物資源学、食品科学、食品生産科学、国際海洋政策、多文化環境論を修得することにより、必要な専門知識を身につけることができます。</p> <p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 シラバスで科目毎に学習成果の評価基準を明示します。講義科目では主として知識の理解度、実験・実習・演習では課題の設定能力、課題解決への探求心、分析力、実験技術の習熟度を評価します。</p>	<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</p> <p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、海洋生物資源の利用、食品の生産・流通、人と海の共生などの分野に意欲的に取り組む学生を求めています。</p> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能) (1) 本学部の教育を受けるうえで必要な資質と英語力を含む基礎学力を有すること。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 旺盛な学習意欲があり、新しい課題に積極的に取り組めること。 (3) 常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持つこと。</p> <p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) (4) コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重できること。 (5) 実用的に使える英語力を修得し、グローバル社会での活躍を目指すこと。</p> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。</p> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜(学科ごとに定める。) ○ 学校推薦型選抜(学科ごとに定める。) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、調査書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査)

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。
 〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。
 〔3〕 基礎科目では、数理・自然科学、人文・社会科学の基礎科目群に加えて、グローバル・キャリア関連科目として、TOEIC L&R関連科目や海外インターンシップを含むキャリア教育科目等を開講します。
 〔4〕 シラバスには評価基準に加えて到達目標・評価方法等が明示されており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、A+・A・B・C・Fの成績を付与します。
 〔5〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。(内容はアドミッションポリシー(全文)でご確認ください。)

東京海洋大学海洋工学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）	学部の教育研究上の目的
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 	<p>海洋工学部においては、海上輸送に関連する海、船の利用及び物流等に強い関心を持ち、工学的視点からこれらに係わる諸課題の理解と解決に必要な高度な技術と専門知識を含む幅広い教養、及び豊かな人間性を身につけた国際的にも活躍できる高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋工学部においては、海上輸送に関連する海、船、物流等の問題に関心を持ち、専門的知識を含む幅広い教養と豊かな人間性とともに、課題の理解と解決に必要な高度な技術を身につけ、国際的にも活躍できる高度専門職業人の養成を目指します。</p> <p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【幅広い視野、文化的素養】 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養</p> <p>【コミュニケーション能力、リーダーシップ】 技術者として必要となる幅広い教養と国際的視野に裏打されたコミュニケーション能力およびリーダーシップの能力</p> <p>【専門的知識・問題解決能力】 海、船、物流等に関する専門的な知識を持ち、それらを活用して問題解決する能力</p> <p>【実践的指導力】 社会のリーダーとして求められる実践的指導力</p> <p>【自ら判断・行動できる能力】 課題に対して進んで取り組み、論理的に考え、的確な判断および行動ができる能力</p> <p>3. 卒業認定（学位授与）の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋工学部では、人類社会の持続的発展に資するため、海上輸送に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、安全な運航、制御システム、省エネルギー技術、ロジスティクスなどについて、国際的な視野に立つ指導的エンジニアとして工学的視点から問題を解決しようとする意欲を持つ人を求めます。</p> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能)</p> <p>(1) 幅広い教養と入学後の学修に必要な英語、数学、理科などの基礎学力を持つこと（思考力・判断力・表現力等の能力）</p> <p>(2) 知識に基づいて論理的な思考および適切な判断ができること</p> <p>(3) 国際的な視野、社会性、協調性と健全な倫理観を持って行動できること（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）</p> <p>(4) 工学分野に関して知的好奇心が旺盛で、自ら進んで知識を吸収する学習意欲のあること</p> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査や総合型選抜、編入学入試を行います。</p> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜 (課題学習能力試験、模擬授業・課題論文、小論文、面接、調査書、志望理由・自己推薦書) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、成績証明書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 編入学(推薦) (小論文、面接、調査書、推薦書、志望理由書) ○ 編入学(学力) (学力試験、成績証明書)
カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)
<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>海洋工学部においては、海、船、物流等に係わる諸課題の理解と解決に必要な高度な技術を身につけ、国際的にも活躍できる高度専門職業人を養成するため、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、全学共通科目を含む総合科目、基礎教育科目、学外実習、実習、実験、演習を含む専門科目を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成します。</p> <p>海事システム工学科及び海洋電子機械工学科では、それぞれ三級海技士（航海）、三級海技士（機関）の資格取得を可能にするためのカリキュラムもあわせて編成します。</p> <p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い視野、豊かな人間性と文化的素養を養うことを目的として、文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系科目より構成されています。〔2〕</p> <p>【基礎教育科目】 基礎教育科目は、数学、物理、情報系科目等からなり、これにより専門科目を学ぶための基礎学力を身につけます。</p> <p>【専門科目】 専門科目により、海、船、物流等に関する必要な専門知識を身につけます。また、実学を重視した実習、実験、演習により、的確な判断力やコミュニケーション能力、リーダーシップの能力を身につけます。さらにゼミナールおよび卒業研究を通して、課題探求能力、問題解決能力を身につけます。〔3〕</p> <p>(海事システム工学科) 2年次後学期から、船舶管理または海事工学の教育プログラムを選択し、専門科目を学びます。海技士資格の取得を目指す学生は、上記のプログラムだけでなく、海技士科目を学びます。</p> <p>(海洋電子機械工学科) 3年次から海技士（機関）ならびにその関連技術者となることを目指すコースと、乗船実習の経験を活かした機器開発、運用技術者となることを目指すコースに分かれ、それぞれのコースで養成を行う技術者に必要な専門知識を身につけます。</p> <p>(流通情報工学科) ロジスティクス・交通計画・物流システムからなる工学系、数理情報・情報工学・システム工学・プログラミングからなる情報系、経済学・商学・経営学からなる社会科学系の3分野の科目をバランスよく開講します。</p> <p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。（東京海洋大学カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋工学部では、人類社会の持続的発展に資するため、海上輸送に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、安全な運航、制御システム、省エネルギー技術、ロジスティクスなどについて、国際的な視野に立つ指導的エンジニアとして工学的視点から問題を解決しようとする意欲を持つ人を求めます。</p> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能)</p> <p>(1) 幅広い教養と入学後の学修に必要な英語、数学、理科などの基礎学力を持つこと（思考力・判断力・表現力等の能力）</p> <p>(2) 知識に基づいて論理的な思考および適切な判断ができること</p> <p>(3) 国際的な視野、社会性、協調性と健全な倫理観を持って行動できること（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）</p> <p>(4) 工学分野に関して知的好奇心が旺盛で、自ら進んで知識を吸収する学習意欲のあること</p> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査や総合型選抜、編入学入試を行います。</p> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜 (課題学習能力試験、模擬授業・課題論文、小論文、面接、調査書、志望理由・自己推薦書) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、成績証明書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 編入学(推薦) (小論文、面接、調査書、推薦書、志望理由書) ○ 編入学(学力) (学力試験、成績証明書)

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。
 〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。
 〔3〕 専門分野の各科目に加えて、インターンシップ科目（国内・海外）、キャリア教育科目等を開講します。
 〔4〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準等はシラバスで明示しており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、優・良・可・不可の成績を付与します。
 〔5〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。（内容はアドミッションポリシー（全文）でご確認ください。）

東京海洋大学海洋資源環境学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）	学部の教育研究上の目的	
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 	<p>海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と、海底を含めた海洋資源の開発と持続的利用に関心を持ち、これらに係わる諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、解決するための高度な知識と技術を身につけ、応用力のある高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p>	<p>1. 教育課程編成の方針</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p>
<p>海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と資源の持続的利用に関心を持ち、諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、自ら考え、解決するための知識と技術を持った高度専門職業人の養成を目指します。</p>	<p>海洋資源環境学部の授業科目は、①総合科目、②基礎科目、③基礎専門科目、④専門科目、⑤資格関連科目、で構成されており、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、これらの科目区分の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。このうち特に③基礎専門科目の一部までは2学科共通の科目を多く設定し、海洋に関する基礎科学的知識を共有できるようにします。また、一部の科目に英語授業や対話型授業を導入し、国際化への対応や様々な課題への能動的・実践的な対応能力を育成します。</p>	<p>海洋資源環境学部では、海洋環境・海洋生物・資源・エネルギーに関するグローバルな諸課題に関心を持ち、環境の保全、海洋や資源の持続的利用、エネルギーの効率的利用などへの取り組みに意欲を持つ学生を求めます。</p>
<p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p>	<p>2. 教育課程実施の方針</p>	<p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p>
<p>【豊かな国際性と幅広い教養】 語学を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な社会・文化についての理解力を兼ね備えた、高い国際的・文化的教養</p>	<p>【総合科目】 全学体制のもとで開講され、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕</p>	<p>(知識・技能) (1) 自然科学から工学の広範な教育を受けるに必要な資質と基礎学力</p>
<p>【幅広い専門的知識】 海洋に係る幅広い基礎科学、および海洋環境の保全、修復、影響評価等に関する専門知識</p>	<p>【基礎科目】 専門科目を学ぶための基盤となる体系的な自然科学、数理学を学ぶとともに、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕</p>	<p>(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 海洋環境や海洋資源に関する広範な領域の学修意欲と、新しい課題への積極性 (3) 様々な問題に取り組むための広い視野と、主体的な考え方</p>
<p>【自ら考え判断できる能力】 様々な情報にもとづいて、自ら論理的に考察し、的確な判断を下せる能力</p>	<p>【基礎専門科目、専門科目】 海洋環境科学科では、海洋学、海洋生物学に関する基礎および専門的知識を修得させるとともに、海洋の環境をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋の現場における観測や環境調査の能力を育成します。 海洋資源エネルギー学科では、海洋に関する基礎的知識と工学の基礎的知識を基盤に、海底資源、海洋再生可能エネルギーなどの持続可能な利用に関連する専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋の利用をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋開発の計画、管理、現場実務の能力を育成します。〔4〕</p>	<p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) (4) 多様な人々と協働するための意思疎通能力の基礎と、異なる考え方や文化を理解・尊重する精神 (5) グローバルに活躍するための基礎語学力と意欲</p>
<p>【現場で通用する実践力】 実験、実習や卒業研究などを通して得た専門知識・能力を総合し、現場における大局化した諸問題について主体的かつ実践的に探究・解決・行動できる能力</p>	<p>【専門科目】 状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力の修得を目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。〔4〕</p>	<p>3. 入学者選抜での評価方法 本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査や、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。</p>
<p>3. 卒業認定（学位授与）の要件</p>	<p>【学修成果の評価の方針】〔5〕 全ての科目において、学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。</p>	<p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔6〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜 (小論文、面接、志望理由書、調査書) ○ 学校推薦型選抜 (小論文、面接、志望理由書、調査書) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、成績証明書) ○ 一般選抜(前期日程)※ (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程)※ (大学入学共通テスト、個別学力検査)
<p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士（海洋科学）の学位を授与します。</p>	<p>〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。 〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。 〔3〕 基礎科目では、数理・自然科学、人文・社会科学の基礎科目群に加えて、グローバル・キャリア関連科目として、TOEIC L&R関連科目や海外インターンシップを含むキャリア教育科目等を開講します。 〔4〕 基礎専門科目・専門科目には、英語のみで講義を行う科目及び海外派遣を伴う実習科目を開講します。 〔5〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準はシラバスで明示しており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、A+・A・B・C・Fの成績を付与します。 〔6〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。（内容はアドミッションポリシー（全文）でご確認ください。）</p>	<p>※ 本学部を構成する海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科では、海洋の環境や資源の利用について広く学習するという共通要素を有することから、一般選抜（前期日程・後期日程）において2学科間の第2志望を認めます。</p>

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科（博士前期課程）3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部・大学院の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。専攻ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学・大学院の目的 （東京海洋大学学則第1条、大学院学則第1条）		研究科の教育研究上の目的	
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 <p>東京海洋大学大学院は、海洋に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>		<p>研究科においては、海洋とその可能性に興味と関心を持ち、海洋に関する学術の理論及び応用を探求し、先端領域を切り拓く高度の専門能力と独創性、及び国際的に活躍できる豊かな教養と倫理性を併せ持つ高度専門職業人や研究者を養成するとともに、海洋分野の諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの高度な研究を行うことにより、直面する諸課題の解決を図ることで、人類社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）		カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）	
1. 目指すべき人材像（個性、特色、魅力）		1. 教育課程編成の方針	
<p>地域特有の問題のみならず、グローバル化する社会と気候変動等地球規模での諸課題を踏まえ、海洋に係わる諸課題の解決と人類・社会の発展に寄与する海洋の持つ可能性に関心を持ち、海洋分野における高度な専門知識と先端的技術を駆使して、異分野との協働による先端領域の開拓、および国際的に活躍できる豊かな教養と社会から科学技術への信頼を得られる倫理性を併せ持つ人材の養成を目指します。</p>		<p>博士前期課程における教育課程は、所属専攻分野における専門的な講義科目、能動的学修に重点をおいた演習・実験・実習科目、および学位論文研究に係る科目から編成されます。学際的知識を得るための研究科共通科目、専攻分野共通科目のほか、他専攻科目（他大学院科目を含む）の履修を義務づけています。また、学部と大学院とを有機的に結びつける博士前期課程科目の先行履修制度を導入しています。</p>	
2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標		2. 教育課程実施の方針	
研究の推進能力	各研究分野における研究課題の社会的背景、学術的意義、応用的価値を把握し、研究を適切に推進できる能力	<p>大学院における学修課程・学修方法については、その専門性に応じて、各専攻で詳細に定められています。討論型授業、ケースメソッドなど多様な手法で実施される授業により、専攻分野だけではなく、学際的知識を幅広く学ぶ学修課程を提供しています。〔2〕</p> <p>履修にあたっては、多様な学生に配慮した長期履修制度や、授業科目の成績・評価についての申立制度を導入しています。さらに、カリキュラムの国際通用性を担保するために、講義の英語化を推進し、単位の実質化を図るとともに、それらを基盤として海外の協定締結大学との共同学位プログラムも実施しています。また、特に優れた研究業績を上げた者については在学期間を短縮する制度も導入しています。</p>	
幅広い専門知識	各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する幅広い専門知識	<p>（前期課程各専攻） 特別演習・実験・論文作成を通じた教育や実践的教育を介して、研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性等を備え、自ら課題を発見し解決する能力を修得させます。</p>	
論理的説明能力、倫理性	各研究分野における研究成果を論理的に説明する能力、学術研究における倫理性	<p>【学修成果の評価の方針】〔3〕 学修成果の評価基準を明示するとともに、研究成果の審査および試験を適切に行います。（東京海洋大学カリキュラム・ポリシー）</p>	
3. 修了認定（学位授与）の要件		3. 入学者選抜での評価方法	
<p>所定の単位を修得し、各専攻で定める学位授与の要件を満たし、学位論文の審査および最終試験において、目標とする能力を身につけたと認められた者〔1〕に対して修了を認定し、修士（海洋科学または工学）の学位を授与します。</p>		<p>入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。</p>	
		4. 選抜方法と学修成果の評価〔4〕	
		<ul style="list-style-type: none"> ○一般選抜（口述試験）（成績証明書、志望理由書、口述試験） ○一般選抜（学力試験）（成績証明書、志望理由書、筆記試験、口頭試問） ○社会人特別選抜（成績証明書、志望理由書、小論文、口頭試問） ○外国人留学生特別選抜（成績証明書、志望理由書、筆記試験、口述試験） ○外国人留学生特別推薦選抜（成績証明書、志望理由書、口述試験） 	

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。

〔2〕 各専攻の開講科目に加えて、専攻共通科目として、キャリア関連科目、海外大学との連携プログラム等を開講します。

〔3〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準をシラバスで明示するとともに学位論文の審査基準（審査方法・手順を含む）を公表しています。履修した授業科目の単位修得の認定（成績評価）は、学期末若しくは学年末に行う試験又は研究報告によるものとし、科目ごとに定める到達目標の達成度に応じて優・良・可・不可の成績を付与します。

〔4〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。（内容はアドミッションポリシー（全文）でご確認ください。）

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科（博士後期課程）3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。専攻ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

<p>大学・大学院の目的（東京海洋大学学則第1条、大学院学則第1条）</p> <p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 <p>東京海洋大学大学院は、海洋に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>研究科の教育研究上の目的</p> <p>研究科においては、海洋とその可能性に興味と関心を持ち、海洋に関する学術の理論及び応用を探求し、先端領域を切り拓く高度の専門能力と独創性、及び国際的に活躍できる豊かな教養と倫理性を併せ持つ高度専門職業人や研究者を養成するとともに、海洋分野の諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの高度な研究を行うことにより、直面する諸課題の解決を図ることで、人類社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とする。</p>							
<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>地域特有の問題のみならず、グローバル化する社会と気候変動等地球規模での諸課題を踏まえ、海洋に係わる諸課題の解決と人類・社会の発展に寄与する海洋の持つ可能性に関心を持ち、海洋分野における高度な専門知識と先端的技術を駆使して、異分野との協働による先端領域の開拓、および国際的に活躍できる豊かな教養と社会から科学技術への信頼を得られる倫理性を併せ持つ人材の養成を目指します。</p> <p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <table border="1" data-bbox="86 1299 590 2258"> <tr> <td data-bbox="86 1299 268 1389">研究の企画立案・遂行、論文作成能力</td> <td data-bbox="268 1299 590 1478">各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を企画立案・遂行し、その成果を学術論文として主体的に作成できる能力</td> </tr> <tr> <td data-bbox="86 1605 268 1694">学際的・先端的で高度な専門知識</td> <td data-bbox="268 1605 590 1724">各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度な専門知識</td> </tr> <tr> <td data-bbox="86 1952 268 2110">研究評価能力、自律的推進能力、論理的説明能力、倫理性</td> <td data-bbox="268 1952 590 2131">各研究分野における他者の研究を適切に評価できる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性</td> </tr> </table> <p>3. 修了認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の単位を修得し、各専攻で定める学位授与の要件を満たし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性および応用的価値の観点から評価される学位論文、ならびに専門知識、論理的説明能力のほか、学術論文・研究発表に必要な英語力を最終試験において評価し、学位の授与に相当する能力を有していることが認められた者〔1〕に対して修了を認定し、博士(海洋科学または工学)の学位を授与します。さらに、海外の大学との協定にもとづき、所用の基準を満たした共同学位プログラム修了者については、協定締結大学からも学位が授与されます。</p>	研究の企画立案・遂行、論文作成能力	各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を企画立案・遂行し、その成果を学術論文として主体的に作成できる能力	学際的・先端的で高度な専門知識	各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度な専門知識	研究評価能力、自律的推進能力、論理的説明能力、倫理性	各研究分野における他者の研究を適切に評価できる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)</p> <p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>博士後期課程における教育課程は、所属専攻分野における高度に専門的な講義科目、および学位論文研究に係る科目から編成されます。学際的知識を得るための研究科共通科目、合同セミナーの履修を義務づけています。さらに、学内外での幅広い社会的経験を得るための各種インターンシップ、コースワークを提供するとともに、大学院修了後のキャリア形成のための科目を開設し、国際社会、産業界等の社会への接続に配慮しています。</p> <p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>大学院における学修課程・学修方法については、その専門性に応じて、各専攻で詳細に定められています。討論型授業、ケースメソッドなど多様な手法で実施される授業により、専攻分野だけではなく、学際的知識を幅広く学ぶ学修課程を提供しています〔2〕。さらに、博士後期課程においては、自身の研究成果の取りまとめを行うと同時に、他の学生の評価を行う中間発表会を実施しています。</p> <p>履修にあたっては、多様な学生に配慮した長期履修制度や、授業科目の成績・評価についての申立制度を導入しています。さらに、カリキュラムの国際通用性を担保するために、講義の英語化を推進し、単位の実質化を図るとともに、それらを基盤として海外の協定締結大学との共同学位プログラムも実施しています。また、特に優れた研究業績を上げた者については在学期間を短縮する制度も導入しています。</p> <p>(後期課程各専攻)</p> <p>(1) 特別演習・実験研究・博士論文作成および学術雑誌への論文投稿を通じた教育や実践的教育を介して、ピアレビューできる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性、自ら課題を発見し解決する能力を修得させます。</p> <p>(2) セミナー参加を通して、自己の研究成果とその意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて協力体制を構築できる能力を育てます。</p> <p>【学修成果の評価の方針】〔3〕</p> <p>学修成果の評価基準を明示するとともに、研究成果の審査および試験を適切に行います。(東京海洋大学カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</p> <p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>大学院海洋科学技術研究科博士後期課程では、時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に係わる諸課題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く、意欲と能力を持つ学生を求めます。</p> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能)</p> <p>(1) 自立した研究者として海洋・水産・海事における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得</p> <p>(2) 幅広い教養と国際的・文化的素養</p> <p>(思考力・判断力・表現力等の能力)</p> <p>(3) 自身が行う研究について学術研究における倫理性と学術的意義を理解し、適切な研究計画を立案し遂行できる能力</p> <p>(4) 得られた研究成果を論理的に説明できる能力</p> <p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)</p> <p>(5) 自身の行う研究と社会との関わりについて自覚し、異分野の研究者や国際的な交流を通して多様なアプローチを考案しながら問題解決に結びつける積極性</p> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。</p> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔4〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般選抜(口述試験)(成績証明書、志望理由書、口述試験) ○一般選抜(学力試験)(成績証明書、志望理由書、筆記試験、口頭試問) ○社会人特別選抜(成績証明書、志望理由書、小論文、口頭試問) ○外国人留学生特別選抜(成績証明書、志望理由書、筆記試験、口述試験) ○外国人留学生特別推薦選抜(成績証明書、志望理由書、口述試験)
研究の企画立案・遂行、論文作成能力	各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を企画立案・遂行し、その成果を学術論文として主体的に作成できる能力							
学際的・先端的で高度な専門知識	各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度な専門知識							
研究評価能力、自律的推進能力、論理的説明能力、倫理性	各研究分野における他者の研究を適切に評価できる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性							

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。

〔2〕 各専攻の開設科目に加えて、専攻共通科目として、キャリア関連科目等を開講します。

〔3〕 各科目の目標及び評価方法をシラバスで明示するとともに学位論文の審査基準(審査方法・手順を含む)を公表しています。履修した授業科目の単位修得の認定(成績評価)は、学期末若しくは学年末に行う試験又は研究報告によるものとし、科目ごとに定める到達目標の達成度に応じて優・良・可・不可の成績を付与します。

〔4〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。(内容はアドミッションポリシー(全文)でご確認ください。)